**槍ヶ岳、北穂高岳山行**

**日時　平成24年7月31日～8月3日**

**場所　長野県**

**参加　2名**

**7月31日**

**あずさ3号で船橋から松本へ、松本電鉄、バスを乗り継ぎ上高地に12:30着。13:05に上高地を出発し、横尾山荘を目指した。今日の宿泊地である。天候に恵まれ、上高地は観光客で賑わいを見せていた。ふと情報板に目をやると、最近の北アルプスでの遭難状況が目に飛び込んできた。3件ほど紹介されていたが、その中の1件に目が集中した。7月26日に女性登山者が大キレットの「飛騨泣き」の難所で200mほど滑落し死亡したという内容であった。目的とするルートでの遭難事故であるので一抹の不安と期待感を持ち合わせながら通常のルートを進み15:50に横尾山荘に到着。2年前に泊まった山荘であるが、私の経験では山荘としては最もきれいで、過ごしやすい山荘と認識している。庭先で夕食前の一杯をやっていると野鳩が足元近くに寄ってきて盛んに餌を要求していて、なんと人慣れした鳩と感心した。明日に備えて早目に就寝。**

**8月1日**

**天候は良好、当初の目論見では槍沢ロッジまで1日目で行く予定であったが、16時までに入室できない場合は横尾山荘に宿泊してほしいとのロッジの指示を受け、昨日は横尾山荘に宿泊した。その結果、出発時間を1時間半早目にし出発は5時とした。なだらかな山道を少しずつ登っていくと40分ぐらいのとことで山と山の間に槍ヶ岳の頭がわずかに見えるところがあった。気持ちが逸る。一の又、二の又を過ぎて槍沢ロッジに到着、出発してから1時間30分の行程だ。しばらく休憩後再び登山開始し間もなくババ平に到着。テントが数個張られていて、登山者の出発点となっているようだ。今年は雨が少なく、その関係で、雪解けも進まず、沢にはまだ多量の雪渓が残っていた。その雪渓を何回か渡り次第に高度を増していく。8時52分に天狗原に分岐に到着。今年は雪が多くまだ天狗原の池は大きなものは出現していないと登山者が言っていた。この付近の雪渓を渡り切ったところで、槍ヶ岳の全貌が姿を見せ始めた。感動の一瞬である。まだ距離感はあるが槍の穂先のように尖った容姿はとても印象深いものがあった。そこからは右手に槍ヶ岳を見ながらの登山となる。後方には常念岳の頭が前方の山の上に見え隠れしていた。グリーンバンド付近と思われる。更に登っていくと槍ヶ岳を開山した念仏行者が都度利用した岩やである播隆窟に到着。当時の開山者はどのような思いでこの山を登ったのだろうと感慨深いものがある。更に登山を続けると、間もなく殺生ヒュッテ分岐に到着、勾配は益々急となり暑さと疲労感で苦労の連続である。登山者が何組かおり、抜きつ抜かれつで皆が苦労しながら登っているなと感じながら足を進める。その中の1組に、小学生の高学年が中学性と思われる男の子とお祖母さん2人連れがおり、お祖母さんは疲労困憊であるが男の子はケロリとしていて、サッサと先に進み、後方から喘ぎ喘ぎ登ってくるお祖母さんを待っている姿が印象的であった。殺生ロッジを右手に見ながら更に登山を続ける。ジグザグの山道をかなりな角度を喘ぎながら登っていき、11:58に槍ヶ岳山荘にやっと到着した。本当に苦しい登山であった。しばらく休息後、本日の目的である槍ヶ岳の頂上を目指した。20分ほどで頂上に到着、この時間帯はあまり登山客も多くなく、殆んど待ち時間なしで登頂することが出来た。頂上はそれでも20人ぐらいの登山客で賑わいを見せており、天候も良好で至福の時間であった。北アルプスの全貌を見晴らすことができ、南の方に目を転じれば富士山、南アルプス連山、八ヶ岳連峰が手に取るように見ることが出来た。いつまでも居たい気持ちを抑え30分後に下山した。再び槍ヶ岳山荘に戻り（13:50）テラスで遅い昼食をとりながらビールで乾杯。本日の苦しかった行程を思い出しながら、達成感を味わった。**

**8月2日**

**槍ヶ岳山荘から北穂高岳まで、いよいよ憧れの大キレットへの挑戦が始まる。午前4時半起床。山小屋の朝は何時も早い。起床するとご来光を見に多数の客がすでに起きて待ち構えている。4時50分近くに槍ヶ岳の右肩近くから太陽が登り始めた。今日の奮闘を誓った。後ろを振り返ると笠ヶ岳の頂上にまん丸い月が隠れようとしているところであった。6:05槍ヶ岳山荘を後にした。約30分で大喰岳の頂上に到着。後方に槍ヶ岳が大きく立ちはだかる。ここから中岳への登山道でライチョウの親子に遭遇。雛が5羽、丁度鶏の雛ぐらいの大きさで盛んに餌を啄んでいた。以前見たライチョウと違いこのライチョウは殆んど人を恐れていなかった。寧ろ、人間がいるところは外敵も少ないことを知っているようで、寧ろ人間の近くにいつまでも居たいような仕草である。親がその様であることから雛も当然人間を恐れず、山道の上までも登ってきて盛んに餌を啄んでいた。その後もう一家族のライチョウに遭遇したが、こちらはそれほど人馴れしている様子は伺がえなかった。暫く登山のことを忘れライチョウ親子と遊んだ後再び登山を開始した。7:20に中岳に到着、そこからしばらく下ったところにこのコース唯一の水場がありそこでペットボトルに水を詰め込みいよいよキレット突入に備えた。8:45に南岳に到着。南岳山荘で一休みし、キレットに向かう準備を整えた。スリングを身体に結び付け、カラビナを取り付け、ザックの重心を少し下げ、靴紐を結びなおした。8:58南岳小屋を出発、しばらく行くと大キレットの標識が目に入った。そこを通り過ぎいよいよ大キレットに挑戦だ。手足の末端まで全神経を集中し、慎重に登山を開始。鎖、鉄梯子、ガレ場、岩を慎重に登る。基本の3点確保を保ちながらゆっくりと岩山を踏破していく。キレット最低部よりわずか手前で昼食をとる。11:00ごろ「長谷川ピーク」に到着。両サイドが切り立ちこのコースの中で最も緊張した箇所であった。逆方向からくる登山者との擦れ違いも大変で、かなり遠方から声を出し合い、どちらが先に進むかを確認しながらの行動だ。すれ違った女性登山者はかなり緊張した様子で、こちらからの問いにも応えることが出来ないくらいの緊張度であった。そこを過ぎると少し広くなっている「A沢のコル」に到着。そこには我々を追い抜いて行った3人のパーテーもザックをおろし休んでいるところであった。少し休息し、3人に先に行ってもらい、いよいよ初日上高地の情報板に記載されていた滑落死が発生した「飛騨泣き」に差し掛かるところだ。慎重に手足に全神経を集中して登山開始。思ったほど難度は高くない。足場を確保するところもあり、3点確保の基本を忠実に実行していけばそれほどの緊張感は無い。この辺で何か所かカラビナを鎖に挟み滑らせながら登ったところがある。安全を第一に配慮した行動だ。「飛騨泣き」を突破し、しばらく行くと「北ホあと200ｍ」と岩に掛かれた文字が目に入る。あと200mのところまで近づいたと思う気持ちとまだ200mもあるのかという気持ちが錯綜する(12:50)。200ｍを約30分足らずで登り13:15にやっと北穂高山荘に到着した。思わず八木さんと握手を交わす。大キレットを踏破した瞬間であった。早速テラスでビールを乾杯、この上なく美味しいビールであった。夕食後サンダル履きで山頂に登る。夕日を受けて周りに山々が美しい。右手に一人の登山者がじっと立ち、盛んにカメラのシャッターを押し続けていた。何をやっているのかと確認したところ、ブロッケン現象がみられるということでシャッターチャンスを伺がっているということであった。試みると、自分の身体が太陽に照らされ、後方の霧の中に映し出されその周りには7色の虹色の輪で囲まれている神秘的な現象を見ることが出来、本当にラッキーな時間であった。その日は大キレットを越えた満足感でゆっくりと就寝することが出来た。**

**8月3日**

**最後の日だ。涸沢を経て、横尾を通り上高地までの約7時間の下山行程である。ゆっくり慎重に下山することに徹しながら5:50下山を開始した。今日も天候は良好。周りの山々が手に取るように見える。後ろを振り返りながら、踏破してきた山々の写真を撮りながら下山を進めた。8:00に涸沢小屋に到着。暫く休憩し、水分を補給し更に下山を進めた。この付近から続々と涸沢経由で穂高に登る登山者の多数と遭遇した。このルートは一昨年登ったがかなりの急なキツイ思い出があるところである。9:30に本谷橋を過ぎ横尾に10:20に到着した。やっと登山を完了した感慨深いものがあった。上高地ﾆ13:05に到着し、ビジターセンターでシャーワーを浴び4日ぶりの垢と汗を落とした。14:20発のバスで新島々まで行き松本電鉄で松本駅に。駅前の「萬来」にて長野名物馬刺しでビールを傾け反省会をし、あずさ30号で帰路の途に就いた。帰宅は20時頃であった**

**以上**